

OCIと過ごした二年間

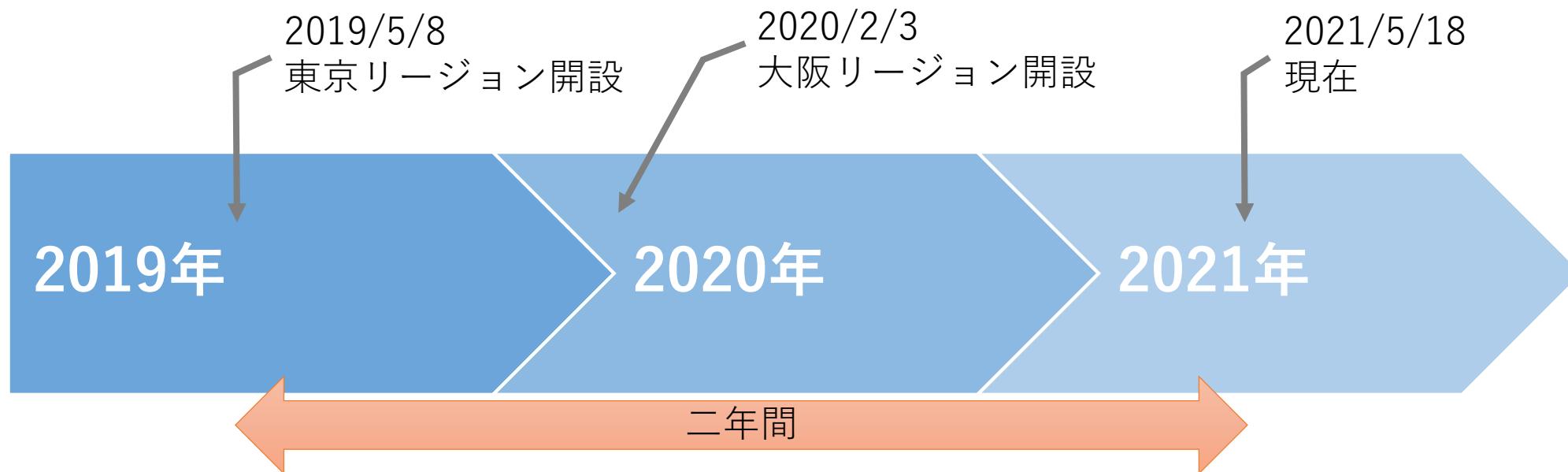
2021/5/18

アジェンダ

- ・二年間の実績
- ・OCIの進化に伴う設計の変化
- ・OCIの進化における注意点
- ・進化を求めたいこと
- ・まとめ

二年間の実績

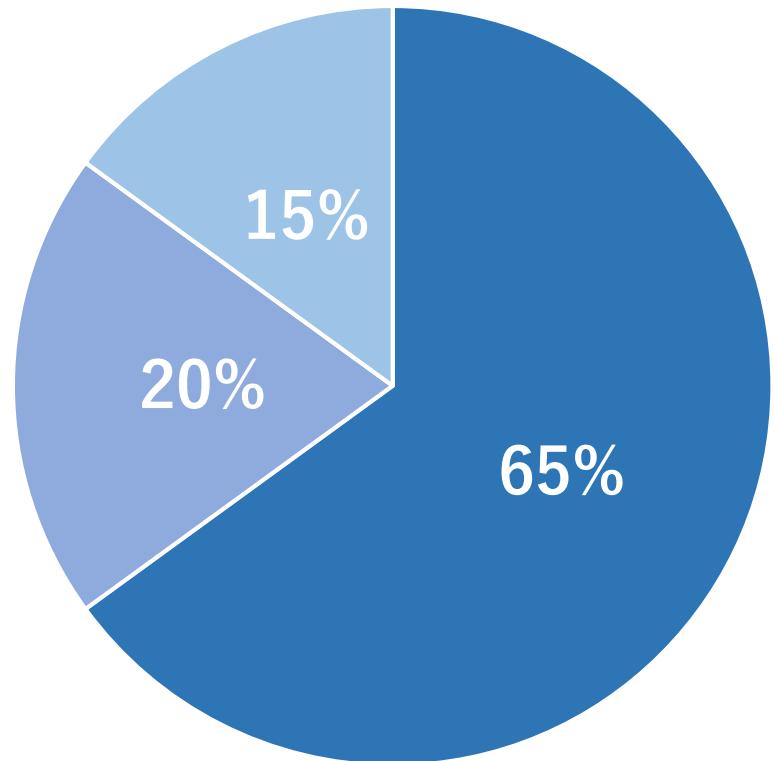
二年間の実績



OCI上に構築した総インスタンス数：100 以上
IPsecVPN設定数 : 10 以上

二年間の実績

プロジェクトの割合



- オンプレ ⇒ OCI移行
- ホスティング/クラウド ⇒ OCI移行
- OCI上に新規構築

⇒ まだまだ オンプレからの移行が多い状況

OCIの進化に伴う設計の変化

OCIの進化に伴う設計の変化

OCIの新機能がリリースされ、

OCIの設計方針が変わる場合もある

パターン①：作り込んでいた機能が新規にリリースされた

パターン②：運用で対応していた機能が新規にリリースされた

OCIの進化に伴う設計の変化

パターン①：作り込んでいた機能が新規にリリースされた（1つ目）

■ ブロックボリュームのユーザ定義バックアップポリシー (2019/11/21)
当初は「ゴールド・シルバー・ブロンズ」の3タイプのみ、時間も固定

【リリース前までの対応方法】

特定の時刻にバックアップを取得するにあたり、
OCI CLIとスクリプト・OSのスケジュール実行機能を組み合わせて行っていた

※実際に「ゴールド」のタイプで設定も行っていました。

日次で7世代、週次で4世代、月次で12世代取得されており、

バックアップ容量がとても大きくなっていました。

⇒後に上記の新機能で世代数を減らしつつ、設定を行いました。

OCIの進化に伴う設計の変化

パターン①：作り込んでいた機能が新規にリリースされた（2つ目）

■ ブロックボリュームのリージョン間の増分バックアップ (2021/2/25)

ブロックボリュームのリージョン間のフルバックアップは可能であったが、コストが大きかった

【リリース前までの対応方法】

ファイルのバックアップを他リージョンへ保管するにあたり、別途インスタンスを構築し、OSの機能で実現していた

※最近ですが、他のリージョンへのブロックボリュームの
非同期レプリケーションもできるようになりました(2021/4/6)

OCIの進化に伴う設計の変化

パターン②：運用で対応していた機能が新規にリリースされた

■ Computeインスタンスのシェイプ変更(2020/1/13)

【リリース前までの対応方法】

インスタンスの再構築を行う手順書を作成し、提供していた

■ CloudShellのファイル転送(2021/3/23)

【リリース前までの対応方法】

CloudShellで出力した情報を取得するのにオブジェクトストレージへ
格納したり、 scpで別サーバに転送する必要があった

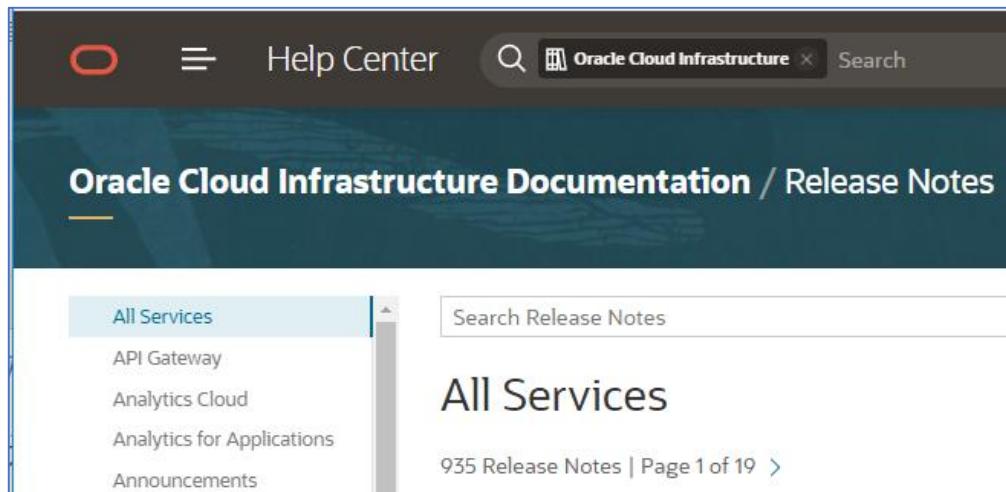
⇒よって、設計方針は同じものを使い続けるのではなく、
常々アップデートが必要と考えています。

OCIの進化に伴う設計の変化

気が付くと便利な機能がリリースされてたりするため、
リリースノートは要チェックです

■ Release Notes

<https://docs.oracle.com/en-us/iaas/releasenotes/>



※新機能 確認のオススメ

- Oracle Cloud Infrastructure 新機能ハイライト
- Oracle Cloud Infrastructure: 2021年XX月度サービス・アップデート

<https://blogs.oracle.com/oracle4engineer/4%e3%82%b5%e3%83%bc%e3%83%93%e3%82%b9%e3%83%bb%e3%82%a2%e3%83%83%e3%83%97%e3%83%87%e3%83%bc%e3%83%88>



OCIの進化における注意点

OCIの進化における注意点

クラウドは仕様や画面が急に変わるので注意が必要です…

■ CloudShellからのファイル取得で実際にあったこと

1. お客様から「CloudShell内のファイルを取得する手順を教えてほしい」との問合せを受ける
2. CloudShell上からCLIでオブジェクトストレージにファイルを格納する手順と他のサーバへscpでファイルを格納する手順を連携
3. お客様側で運用手順書を作成

⇒3日後、「**CloudShellのファイル転送**」の機能がリリースされました…。
お客様には別途 説明しておきました。



OCIの進化における注意点

**手順書やインターネット上の情報も古い場合がある
(OCIの日本語マニュアルも少し古かったりする)**

極力、実画面の確認、実機検証を行うようにしましょう。

ただ翌日に画面が変わる…という事もあります。
⇒冷静に対処しましょう

※最近はアップデートが多くいため、よい機能を見逃さないように
したいと思います…。

進化を求めたいこと

進化を求めたいこと

残念ながら、Oracleサポートへ問い合わせた際の対応は
まだ改善が見られない気がします…

(回答内容について、お客様から説明を依頼されることが度々ある)

しかしながら、

- **Oracle Database**
- **MySQL(MDS)**

の問い合わせはしっかりとした回答を頂けると思います。

まとめ

まとめ

- OCIは新機能が次々とリリースされており、
新機能をチェックしておく

⇒新機能によっては

運用工数の削減/OCIコストの削減/セキュリティの向上
も可能であり、過去の設計も見直すとよい

- 設計書/手順書(ブログ等も)には
いつ時点の情報・画面であるか書いておく

⇒後々に見た人が迷ったり、勘違いしないように

- OCIのサポートには…根気強く対応する